

元治元年十二月二十三日より元治元年十二月廿六日まで

P8311210 right

廿三日寅 晴風烈

土屋栄初て来り面す(上等)、不時御礼有し、五半時御登城出 殿、柳亭稽古に来る、喜太三来り自裁の梅一株を贈り越旨也、京地須崎(常)より寒中状届く、笠原(常)寒見舞 旁来り志願筋を申致し候て、三菩提寺へ歳暮の使遣す、加州より使者さし越白銀五枚 生□□鯉節一籠を贈らる、山ノ井来る、柳亭を参酌(*1)す、瑞コンシユル等正泉寺へ着の旨申 来る

廿四日卯 晴

田中(廉)来り面す、藤村(清)志願筋にて来り申置にて帰る、とうめを黄窪へ遣し、且太郎同行せしめ、鮭一尺菓子少許外に少女初年暮に付、衣うら表羽子板並三婢へ賀銀為持遣す、公書に属する歳暮使、夫々差遣様、本日命あり、出 殿、局例暮出銀□□三郎へ渡す、喜太三より 縁□□梅一鉢を贈り越す旨、五郎生年暮に来りし旨

P8311210 left

廿五日辰 晴

内山桑名へ歳暮として太郎を遣し謝品持参せしむ、国府(猪)初て来り、面す(下)、出 殿 金藤歳暮として煙草一斤持参の旨、寺山小君同断、鮭一尺持参の旨、柳亭へ歳暮謝 儀へ煙草一筥、足袋二足添、須崎へ年末賀銀松盛亭へ同断、足袋に添、使を遣す、富沢 (砂糖並□□方謝として白酒一壺添)

叔母前同行来り鶏卵一筥、三兎へ下駄二、足袋一を持参、保三来り歳暮賀小品を贈らる酒飯を設く、京地良造方へ為替金取組方の儀、文通一書達し方□□濟方へ頼み遣す、金八来る 落話二三段を聞く

廿六日巳 晴

用人以下、惣躰へ年末賀銀を為取候、出 殿、向には年末賀銀を配達す、年末使として 牛込へ一方鮭一尺、坂町へ一方炭式俵、保三へ服紗一、足袋二、藤山へ二方、清田へ二方、 二□□二包

*1:参酌(さんしゃく)、他を参考に長所を取り入れること

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。26,

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。